

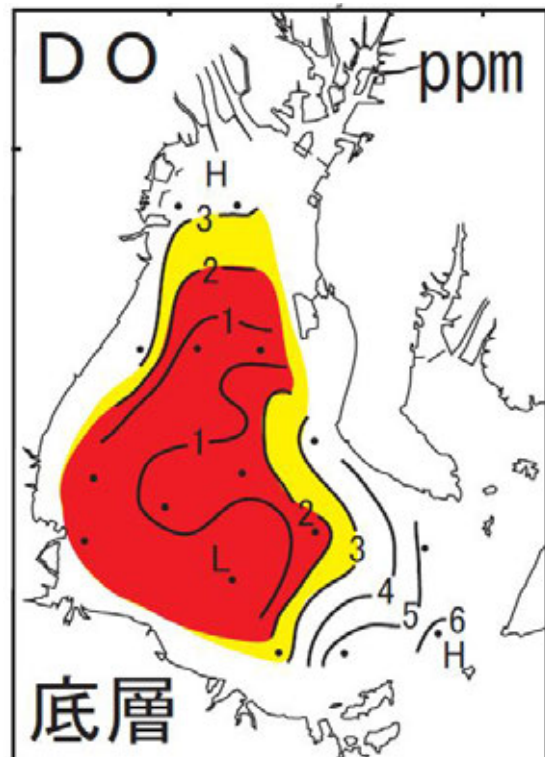
伊勢湾貧酸素情報（第 4 報）

三重県水産研究所 鈴鹿水産研究室

底層の溶存酸素量は先月よりもさらに低下した。湾中央部を中心に広い範囲に 2 ppm以下の貧酸素水塊が形成されており，三重県側の中南勢の沿岸域では 1 ppm以下となっている。

9月11日の調査結果

9月11日の調査船「あさま」の定線観測によると，水温は表層で 23.2～25.0，10mで 22.6～24.3，底層で 19.8～24.1 の範囲にあり，平年値に比べ低めとなっていた。塩分は表層で 28.65～31.69，10mで 30.11～32.23，底層で 31.93～33.33 の範囲にあり，表層で平年値に比べ高め、10mと底層で平年並みとなっていた。DO(溶存酸素量)は表層で 6.4～8.2ppm，10mで 4.5～7.2ppm，底層で 0.0～6.0ppm の範囲にあり，表層では平年並み～やや低め，10mでは湾中央部で高め，底層では湾中央部の深所を中心に貧酸素水塊が形成されており，貧酸素水塊の範囲は先月と比較して変わりはないが、津市～伊勢市沿岸域では 1ppm以下となって悪化していた。今後も貧酸素の動向に注意する必要がある。



底層貧酸素水塊分布